

民主青年新聞

●ホームページ www.dylj.or.jp ●Eメール minsin@dylj.or.jp

見どころ

第46回全国大会決議

(4~8面)

第46回全国大会の討論から

(10, 11面)

政治変える展望求める青年の声



▶「パン屋で働いているので、小麦粉の値上がりで商品にも影響が出ている」と話す青年(11月16日、渋谷)

11月、各メディアが報じた世論調査では、発足からおよそ1年の岸田政権の支持率急落が報じられています。しかし一方で編集局の街頭取材では、岸田政権について「どちらかといえば支持する」「分らない」という声を青年から聞くこともありました。青年はどんな思いで生活し、政治をどう見て、何を求めているのか考えます。(文中は仮名、太田良真記者)

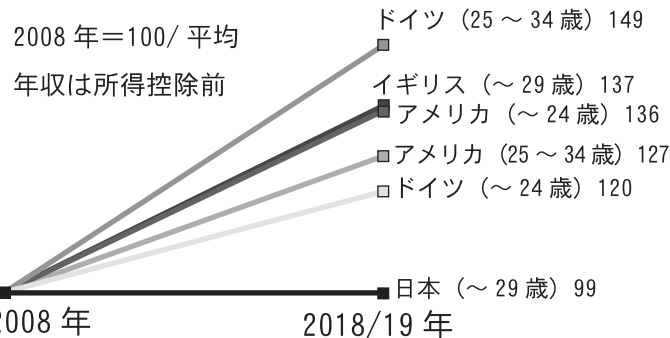
「食べない方が楽かな」と思うときもある

「アベノミクス」による「異次元の金融緩和」で引き起こされた異常な円安や、ロシアのウクライナ侵略の影響によって、物価高騰は深刻さを増しています。

都内A大学の門前で民青が行った食料支援(フードバンク)を訪れた健太さん(大学3年)は、「食費が一番お金がかかる。自炊でなければいけど、大学の授業やアルバイトで忙しくて時間も無いし、難しい。食べない方が楽かなと思うときもある」と暮らしぶりを話しました。同じくフードバンクを訪れた隆人さん(大学3年)は、「電気代が上がってしんどい。クーラーは当分付けたくない。食費の節約で安いスーパーを回っている。どうかならないのかな」と苦しい実態を話しました。

格差の広がりについても問題意識が話されました。渋谷の街頭取材で「資本主義社会だから、格差が生まれるのは当たり前」と応えた直也さん(30)、会社員)。「格差が生まれるから、それを矯正することが必要。消費税が上がれば貧困層にはかなり苦しくなる。軽減税率とか姑息なことはせず、減税すべき」とも話します。

若年層の平均年収の伸び率の国際比較



労働政策研究機構「国際労働比較」を基に作成
※「世帯主の年齢階級別家計収入及び支出」より。日本・経常収入のうち勤め先収入(2008, 2018)、ドイツ・総収入のうち勤め先収入(2008, 2018)、アメリカ・税引き前所得(2008, 2019)、イギリス・粗所得のうち賃金・俸給(2008, 2019)

「特に暮らして困っていることはない」と話すような青年も、話をよく聞いてみると、困窮や不安を抱えていることが分かります。街頭で取材に応えた亜希さん(大学2年)は「暮らしは特に困ってない」と言いつつも、「物価が上がっていると感じる。よく通っているお弁当屋さんが『食材の仕入れ値が2倍になった』と話している」と話していました。日本全体が少しずつ

「ルールなき資本主義」日本とヨーロッパの比較

		日本	ヨーロッパ
雇用	労働時間	2021時間	独 1652時間 仏 1425時間
	非正規雇用	41.0%	独 13.0% 仏 15.8%
	最低賃金	930円	独 1335円 仏 1412円
社会保障	社会保障給付(GDP比)	22.4%	独 27.6% 仏 32.2%
中小企業	大企業との取引	「下請け」いじめ	対等な取引
	賃金格差	小企業は大企業の56.3%	規模別格差は小さい
教育	学費	大学 82~136万円	多くは無償か廉価
	奨学金	給付制は8%	多くは給付奨学金

※数値は2022年4月時点のもの
「新・網領教室(上) - 2020年改定網領を踏まえて」を基に作成

「給料が安すぎる」

貧しくなっているみたいで、金を貯めなきゃと思っ不安。がんばって自分でお金を貯めなきゃと思っ不安。がんばって自分でお金を貯めなきゃと思っ不安。がんばって自分でお金を貯めなきゃと思っ不安。

新自由主義的な政治により、青年の働き方はますます厳しいものに追い込まれています。特に日本では、政府が大企業の要望に応え「ルールなき資本主義」が横行し、長年にわたり賃金が上がっていない(上図)他、長時間過密労働、不安定雇用は当たり前となつています。学生には高い学費や、学生ローンと化している奨学金制度も重くのしかかります(右下図)。岸田首相は、自民党総裁選で「新自由主義からの転換」を掲げながらも「アベノミクス」を継承した新自由主義的な政治を推し進めています。「就職して一人暮らしを始めた」と話す美奈さん